

## 助成金についての勉強会を 開催しました

「地域で困っている人がいる、私たちの力でなんとかできないかしら」「社会のために役に立ちたい」「子どもや孫が幸せに暮らせる社会づくりを」。

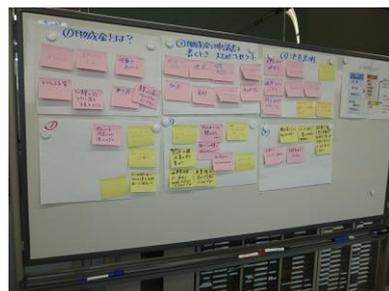
そんな想いで立ち上げた民間非営利組織（NPO、市民活動団体、地域づくり協議会など）ですが、資金面で困っておられる団体が多くあります。

淡海ネットワークセンターでは、資金獲得についての勉強会を2015年度から実施しています。『助成金を受けたいな！助成金申請書の書き方勉強会』という表題で呼びかけていますが、民間非営利組織の資金調達全般と、どうしたら共感いただけるのかを、ワークショップ形式で学んでいます。

2017度は、11月25日と12月20日におこないました。前者は2団体3名の参加、後者は5団体7名の参加がありました。

この勉強会は、当センターの未来ファンドおうみ助成金に限定せず、広く資金調達を考えます。収入には、会費、寄付金、事業収入、助成金、補助金、受託収入などがあり、それぞれ特徴があります。団体の活動分野や活動の歴史や支えてくださる方によって、これらの組み合わせは多種多様ですが、一つだけに頼らず、複数の収入源を組み合わせることをお勧めしています。参加者のみなさんの関心が高い「助成金」もその中のひとつなのです。

そこで、助成金を考えておられる団体にとって大切な「情報収集」「申請書を書くために必要なこと」「募集要項の読み方」「行動すること」をお話しし、参加者からアイデアを出していただき、最後にそれぞれが決意表明をしました。



# 2017 助成先団体の活動

おうみNPO活動基金助成

## NPO法人とまり木

採択事業は「障害児者の宿泊体験チャレンジ事業」です。

4月6日から始まり、12月15日まで15回実施しました。

そのなかの一つである「第2回サンデー専科 宿泊体験学習《湖畔でいろいろ楽しんでみよう!》」は、8月16日(水)～17日(木)にかけて、近江八幡市安土町にある障害のある人のための宿泊施設「とまり木」を利用しておこないました。青年の仲間4人に加え、サポーター4人(教職員)が参加しました。



スーパーに出かけ、みんなと相談しながら夕食の食材を買いました。それを持ち帰り、自分たちの力で調理して楽しい食卓を囲みました。また、「信長の館」を訪ねたり、西の湖でバス釣りも体験しました。



参加者がサポーターと一緒に、様々な体験や工夫をしながら、生活を自ら切り開いていくことにチャレンジする活動となりました。

びわこ市民活動応援基金助成

## 八幡山の景観を良くする会

採択事業は「市民や子供達が親しめる安全で明るい里山環境、八幡山の整備活動の継続」です。



毎月3回、八幡山の竹林整備作業、コナラ林と遊歩道整備作業、縦走路整備作業などの定例作業をおこなっています。

子供達も参加できる活動としては、4月29日に第12回親子タケノコ堀り大会を開催しました。47組親子171名、スタッフ35名が参加しました。

11月23日は、第8回親子八幡山縦走ハイキング会をおこないました。2歳11カ月の男の子も含め、19家族56人、スタッフ山行き同行8人、いまさか班10人が参加しました。八幡山公園をスタートし、途中何度か休憩を取りながら百百神社に下山しました。その後、船着場から渡船して島地「いまさか」に上陸して昼食。午後は芋堀りと焼き芋試食をしてから、カヌー遊び、清竜丸での水郷めぐりなど、晩秋の八幡山周辺をみんなで楽しみました。

## 2017 助成先団体の活動

びわ湖の日基金助成

### 南滋賀の里山を守る会

採択事業は「先祖から伝わる里山の保全を通じて地域の活性化を図る」です。

里山のモデル山を設定し、広葉樹（クヌギ、コナラ、栗等）を植林し、カブトムシ・クワガタなどの集まる山を作り、子どもたち、近隣の住民等が親しめる山を作りをめざして活動しています。また、この地域には猪等が出るため、植えた広葉樹の苗には獣害を防ぐためのネット等の設置もすすめています。

モデル山では、保育園児や児童クラブを対象に、里山体験事業をおこないました。



6月15日には、近くの皇子が丘保育園5歳児が「自然体験」をしました。木漏れ日のさすモデル山で、木の伐採を見ました。また、自分たちもみんなで力を合わせて伐採した木を引いたり、ノコギリを使ったり、大木にまたがったりしました。園児たちは自然と関わる楽しさとワクワク感を体験しました。

このように、里山の保全を通じて琵琶湖の水源を守るとともに、地域との連携で活性化を図っています。

湖国文学活動応援むらさき基金助成

### 近江八幡読書グループ連絡会

採択事業は「講演会『近江商人を支えた女性たちに学ぶ暮らしの知恵と美』、展示『近江商人の妻たち』着物展および親子ワークショップ『着物の端切れで軸をつくろう！』」です。

9月10日には、書家の猪飼宜妙さんを講師に「着物の端切れを使った額づくり」ワークショップをおこない、29名が参加しました。9月19日～24日には、「始末して、おきばりやす～八幡商人、妻たちの着物展」を開催し、337名の来場者で賑わいました。教養をもちつつ、着物の一部であっても無駄にせず、次の世代へ受け継いできた八幡商人の妻たちの心を知る機会となりました。最終日の24日には、元近江八幡市立資料館館長の河内美代子さんの講演「八幡商人の妻たち 暮らしの知恵と美」を開催し、定員を大幅に上回る91名の参加がありました。懐かしい話や、近



江商人の妻たちの着物に込めた思い、工夫、知恵などを知っていた

だけの機会となりました。11月4日には「市民読書会」を開催し、丹波元著『お上にたてつき候』をテキストに、文学から近江商人の生き方を学び、意見交換しました。

# 未来ファンドおうみについて

## 寄付について

Q) 未来ファンドおうみへの寄付はいくらから出来ますか？

A) 寄付はいくらからでもお受けします。  
未来ファンドおうみには、5つの基金がありますので、どの基金への寄付か決めていただきます。

### 1. おうみ NPO 活動基金

いくらからでも寄付をお受けしています。

### 2. 想いを込めた基金(冠型基金)

寄付金額30万円以上から、地域、分野などを指定して、寄付者のお名前をつけて基金を開設することができます。

### 3. 淡海ネットワークセンター運営基金

いくらからでも寄付をお受けしています。

### 4. びわ湖の日基金

いくらからでも寄付をお受けしています。

### 5. 自由な発想の基金

淡海ネットワークセンターとご相談ください。

Q) 寄付の税制優遇について知りたいのですが。

A) 公益財団法人への寄付は税制優遇措置の対象となります。詳しくは、ホームページをご覧ください。

Q) 寄付金は全て助成金になるのですか？

A) 寄付金額のうち10～20%は、未来ファンドおうみの仕組みを支えるための経費として、淡海ネットワークセンター運営基金へ充てます。

Q) 寄付したお金がどのように使われているのか知ることは出来ますか？

A) 助成を受けた団体や事業の内容については、ホームページや通信で報告します。また、基金の開設へ寄付された方には、助成先団体の中間相談会、成果発表会のご案内もいたします。

## 助成事業について

Q) 助成申請はNPO法人でないといけないのですか？

A) NPO法人、任意団体どちらでも申請していただけます。申請時には、会則、役員名簿、事業計画や予算、事業報告や決算を添付していただきます。

## お問い合わせ先

淡海ネットワークセンター（公益財団法人 淡海文化振興財団）

〒520-0801 大津市におの浜 1-1-20（ピアザ淡海2F）

TEL：077-524-8440、FAX：077-524-8442、e-mail:office@ohmi-net.com